

どっちもどっち ～ 信頼関係の再構築ができるか

多胡秀人

2020/2/9

「2019年9月期の地銀決算で貸倒引当金など信用費用が増えているのは融資先の粉飾が主たる要因であり、粉飾は複数行と取引のあるメイン不在の企業が多い。」地方銀行協会会長の記者会見での発言です。

たしかにメイン不在の中小企業が増加傾向にあるように思います。中小企業と金融機関との関係が希薄化し、金融機関は融資額や取引先数を増やすだけの、いわゆる「ぶら下がり融資」が横行していることは否定できません。

金融機関がメインとして取引先を支えないから、業績が悪化したらすぐに逃げるから、中小企業の中には悪いところを見せまいとして、粉飾に手を染めるところも出てくるのです。粉飾を指南する税理士、会計士や経営コンサルトもはびこっているとの声もあります。

「中国5県 粉飾が倒産増の一因に、金融機関点検急ぐ」

2月4日の日本経済新聞 中国版と電子版に興味深い記事がありました。

～「生きていくために、中小・零細で粉飾をしているところは少なからずある」（地銀OB）。融資を受けられないと運転資金がままならず倒産も免れない。借り入れのために決算書を粉飾するという悪循環に陥っている企業もあるようだ。粉飾倒産が顕在化しつつある現状に、金融庁関係者も警鐘を鳴らしている。金融庁参与でNPO法人日本動産鑑定会の森俊彦会長は「全国的にも同様の事例が出ている。粉飾倒産の増加は、金融機関が伴走型の融資をできていないことを物語っている」と話す。（同記事）

金融機関はプロダクトアウトの金融商品の物売りが主たる業務となり、企業に対する目利き力はガタガタになっています。融資先のモニタリングは甘くなり伴走支援をしないから、業況悪化の予兆を察知できず、粉飾を見破れず、損失を被ることになります。そうなると融資の姿勢は防衛的になり審査は厳しくなります。完全な悪循環です。

どっちもどっち。中小企業と金融機関との信頼関係は何処かに行ってしまいました。

～(森俊彦会長は) 粉飾の原因究明と併せ、「なぜ信頼関係を築けていなかったかを突き止めないと、同じことを繰り返す」と指摘する。(同記事)

森俊彦さんのコメントを重く受け止めねばなりません。

(了)

※※※ 無断転載はお断りします ※※※